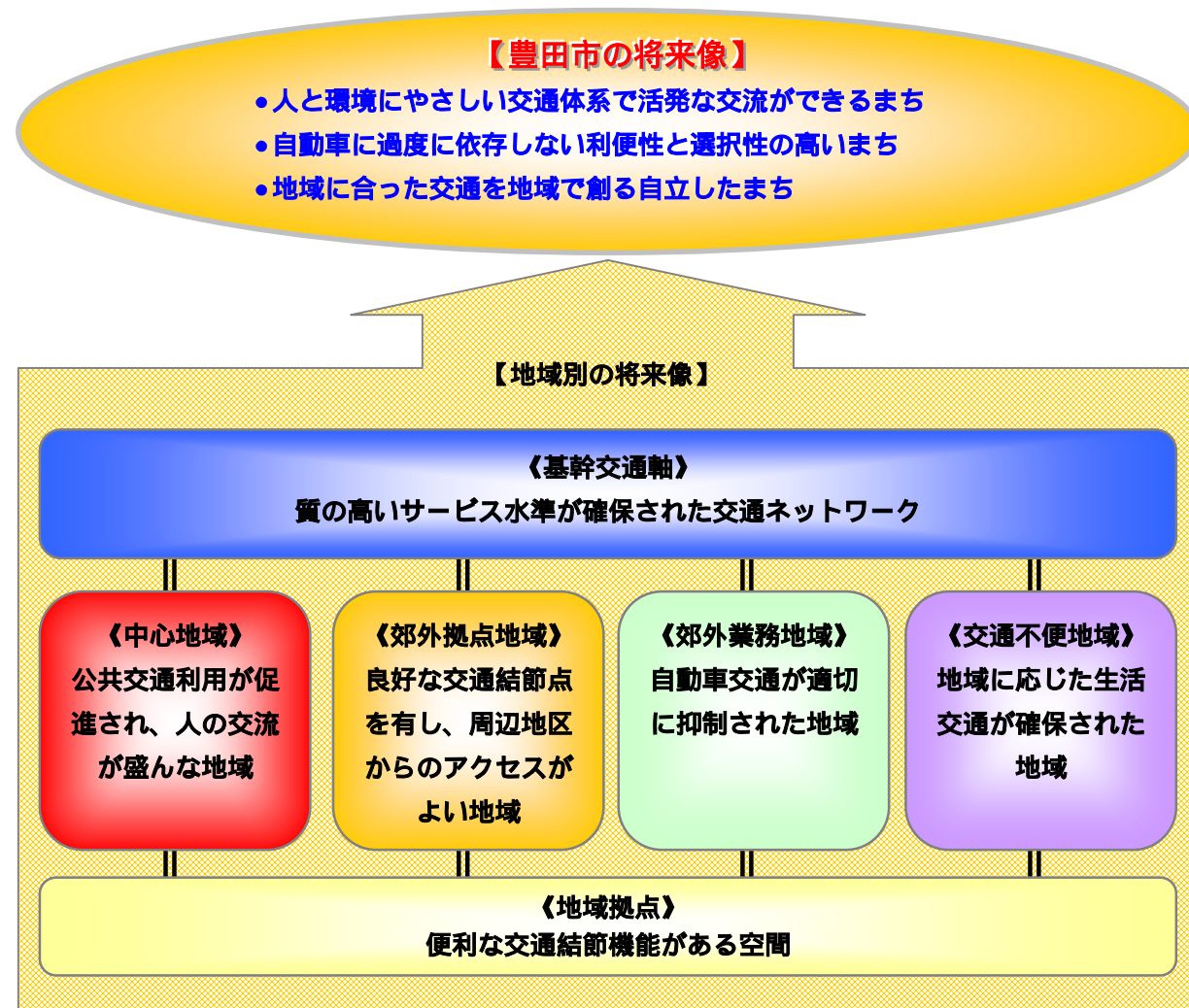


5. 豊田市の将来像検討に向けて

5-1 豊田市全体の将来像の考え方

豊田市の上位計画における将来都市像と、中部地方交通審議会答申9号における中部圏の目指すべき将来像、及び豊田市の交通課題を踏まえ、豊田市の将来像及び枠組みを以下のように考える。

- 豊田市全体の将来像とし、下図に示す3つの理念を設定する。
- 地域に応じた将来像を設定し、豊田市基幹交通軸の将来像と合わせて、豊田市全体の将来像が達成できる枠組みとする。
- 豊田市の交通ネットワークの骨格を形成する基幹交通軸は、豊田市全体の将来像達成に重要な柱と位置付ける。
- 地域の分類は、交通流動や地域特性に応じ4つの地域に分類し、地域区分ごとの基本的な共通将来像を設定する。
- 地域拠点は、地域ごとの将来像を達成するための重点ポイントとして施策の中心的役割を担う地点として位置付ける。



5-2 地域別にみた将来像の考え方

地域別にみた将来像

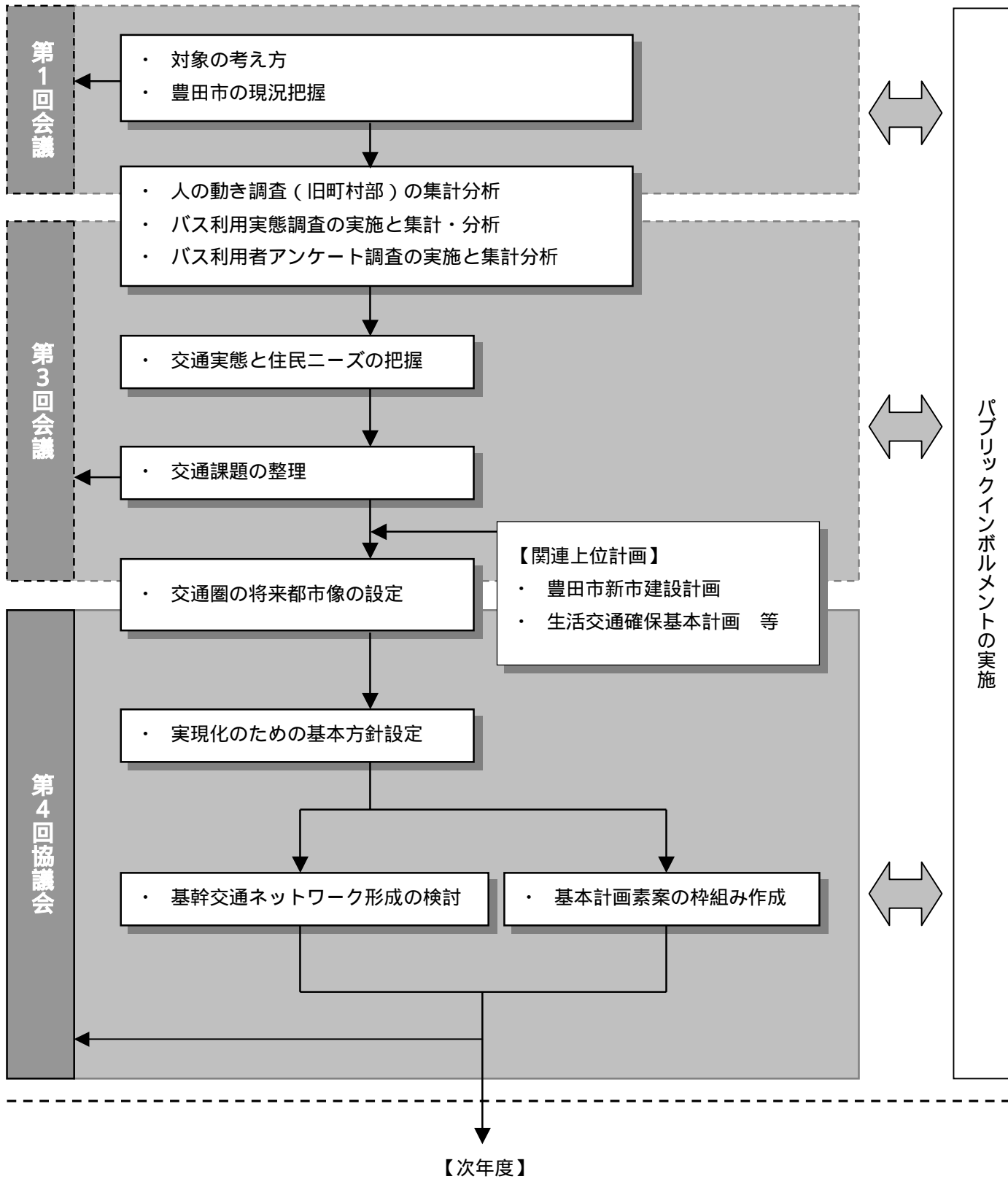
地域等区分	将来像(イメージ)
基幹交通軸 (地域交通軸)	公共交通のサービス水準が高く、かつ公共交通が優先され、交通圏内及び2次交通圏の広域的幹線を担い、良好なアクセスができる。このうち、流動が比較的少ない山間地域の地区間を結び、需要に応じた公共交通が展開された軸を地域交通軸とする。
中心地域	多様な都市施設を有し人やものが集中する地域にあって、公共交通が促進され、地域内の移動や郊外からのアクセスに選択性の高い移動手段が機能し、安全・安心・快適で、にぎわい・活力が感じられる。
郊外拠点地域	多様な移動手段が有機的な交通結節点で結ばれ、周辺地区との連携が図られたコンパクトなまちで、それぞれの地域の特徴が活かされている。
郊外業務地域	大規模な業務施設を有した特異的な地域で、適度に自動車交通が抑制され、日常の移動を支える生活交通と共存が図られている。
交通不便地域	誰もが日常生活に必要な最低限の生活交通が、地域によって確保される仕組みがつけられ、それを支える地域住民の連携がなされている。
地域拠点	複数の交通手段が集まる交通結節点として、人が滞留・憩うことのできる空間・施設を有している。

【参考 - 中部地方交通審議会による地域別将来像と豊田市との設定の違い】

中部地方交通審議会による設定		豊田市による設定	
地域分類名称	地域設定概念【将来像】	地域分類名称	地交審との相違理由
交通集中地域	中京圏の中央部を想定 【公共交通優先のまち】	-	該当しない
都市地域	地方交通圏の中核となるような都市の交通の中心地域を想定 交通拠点から郊外地域等に公共交通路線が通じる 【多様な公共交通を活かした魅力あるまち】	中心地域	基本的に同様の考え方であるが、豊田市の中では交通・都市機能及び流動が突出していることから、より地域特性を表す名称とした。
郊外地域	都市地域等の郊外を想定 公共交通の採算可否が混在する 【公共交通と私的交通が適切に共存したまち】	郊外拠点地域 郊外業務地域	基本的に同様の考え方であるが、豊田市では、同じ郊外であっても大規模工場による自動車交通が極めて多い特徴をもつ地域があることから、郊外の主要交流施設や交通結節点をもつ地域を分けて検討する必要がある。
交通不便地域	公共交通の無いあるいは非常に運行本数が少ない地域を想定 【生活交通が確保されたまち】	交通不便地域	同様の考え方
-	-	基幹交通軸	豊田市では、特に市内での広域的な連絡路線、及びそれを結ぶ拠点の位置付けが重要であることから設定した。
-	-	地域拠点	

6. 今後の進め方

【今年度の調査項目と流れ】



【次年度の調査項目と流れ】

